

令和8年度最適化活動の目標の設定等

都道府県名： 兵庫県

農業委員会名： 南あわじ市農業委員会

I 農業委員会の状況(令和8年4月1日現在)

1 農業委員会の現在の体制

任命・委嘱年月日 令和5年8月1日

任期満了年月日 令和8年7月31日

	農業委員	
	定数	実数
農業委員数	19	19
認定農業者	—	10
認定農業者に準ずる者	—	1
女性	—	4
40代以下	—	0
中立委員	—	1

	定数	実数	担当区域数
農地利用最適化推進委員	35	35	4(35)

2 農家・農地等の概要

	経営体数
総農家数	2,979
農業経営体数	2,583

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	農業者数(人)
基幹的農業従事者数	4,067
女性	1,846
40代以下	427

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	経営体数(経営体)
認定農業者	775
基本構想水準到達者	337
認定新規就農者	15
農業参入法人	57
集落営農経営	43
特定農業団体	0
集落営農組織	43

※農業委員会調べ

単位:ha

	田	畑	計			計
			普通畑	樹園地	牧草畑	
耕地面積	3,450	230	0	0	0	3,680

※ 直近の「耕地及び作付面積統計」に基づいて記入

II 最適化活動の目標

1 最適化活動の成果目標

(1) 農地の集積

① 現状及び課題

現状	管内の農地面積(A)		これまでの集積面積(B)		集積率(B)/(A)	
	ha		ha		%	
	3,680	ha	1,782	ha	48.4	%

課題	高齢化や後継者不足により不耕作地の発生が懸念される。地域計画に沿った認定農業等への集積を進めていく。また、利用者が見つからない農地については、市独自事業の農地バンクを活用するなどして有効利用・流動化を促進する。
----	---

- ※1 農地面積は、直近の「耕地及び作付面積統計」における耕地面積を記入
 ※2 「農地の集積」は、経営局長通知の別表1に掲げる者への農地の集積をいう
 ※3 「集積面積」は、局長通知別表1に掲げる者へ集積された農地の面積をいう(以下同じ。)

②目標

農地の集積の目標年度	令和15年度	集積率	65.0%
今年度の新規集積面積	36 ha	農地面積(C)	3,680 ha
今年度末の集積面積(累計)(D)	1,818 ha	(目標)今年度末の集積率 (E)=(D)/(C)	49.4%

※ 農地の集積の目標年度及び農地集積率には、設定した目標の根拠とした目標の目標年度及び当該目標年度における農地集積率を記入

(2)遊休農地の解消

①現状及び課題

現状	直近の利用状況調査により判明した遊休農地の状況		
	1号遊休農地面積	うち緑区分の遊休農地面積	うち黄区分の遊休農地面積
	69.3 ha	69.2 ha	0.1 ha
課題	遊休農地の面積が徐々に増加傾向にある。高齢化や後継者不足に加えて、燃料高騰など社会的な要因も加わり保全管理が不十分な農地が増えてきている。委員及び事務局職員で遊休農地の発生防止、解消の啓発をするとともに非農地判断を実施し、農地と残す部分の明確化を進める必要がある。		

②目標

ア 既存遊休農地の解消

a 緑区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積	22.2 ha
緑区分の遊休農地の解消目標面積	4.4 ha

※ 緑区分の遊休農地の解消目標は、令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積の5分の1の面積を記入

b 黄区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における黄区分の遊休農地	0.4 ha
--------------------------	--------

黄区分の遊休農地の解消のための工程表の策定方針	昨年度に引き続き、関係機関と相談して策定する。
-------------------------	-------------------------

イ 新規発生遊休農地の解消

前年度に新規発生した緑区分の遊休農地の解消目標面積	28.8 ha
---------------------------	---------

(3)新規参入の促進

①現状及び課題

現状	令和5年度新規参入者	令和6年度新規参入者	令和7年度新規参入者
	23 経営体	26 経営体	23 経営体
	10.65 ha	10.83 ha	4.29 ha
課題	新規参入者がスムーズに農業経営を担えるように地域との調和・調整の橋渡しを図る。また、新規参入者が農地を取得、借受をしやすくなるように市単独事業の農地バンクの情報発信を積極的に実施する。		

※ 現状欄は、直近3年度の新規参入した経営体数と当該経営体の経営面積の合計の農地面積を記入

②目標

権利移動面積	令和5年度	令和6年度	令和7年度	平均
	211 ha	284 ha	190 ha	228 ha
新規参入者への貸付等について農地所有者の同意を得た上で公表する農地の面積			22.8 ha	

※1 過去3年間の権利移動面積は、農地法(昭和27年法律第229号)第3条第1項に基づく許可及び農業経営基盤強化促進法第19条に基づき公告された農用地利用集積計画による権利移動面積(有償所有権移転(所有権に基づいて耕作の事業に供していたものに限る。)及び賃借権の設定並びに利用権の設定に限る。)を記入

※2 目標面積は、過去3年度の権利移動面積の平均の1割以上を記入

2 最適化活動の活動目標

(1) 推進委員等が最適化活動を行う日数目標

1人当たりの活動日数	8 日/月	最適化活動を行う農業委員の人数	19 人
		農地利用最適化推進委員の人数	35 人

(2) 活動強化月間の設定目標

活動強化月間の設定回数	3 回
-------------	-----

取組時期	取組項目	強化月間の内容
2月	農地の集積	利用意向調査送付時及び利用意向調査未回答者への委員からのアプローチ時に耕作放棄地及び遊休農地の発生防止のために、市単独事業の農地バンクに登録してもらい、担い手や新規参入者等への空き農地の流動化を図る。
3月	遊休農地の解消	利用意向調査送付時及び利用意向調査未回答者へのアプローチ時に耕作放棄地及び遊休農地の発生防止に努める声掛けに力を入れる。
7月	新規参入の促進	合同就農相談会開催前に委員全員に相談会のリーフレット配布や啓発に力を入れ、新規就農者の参加者を募る。

※1 取組項目欄は、①農地の集積、②遊休農地の解消、③新規参入の促進のいずれかを記入

※2 強化月間の内容欄は、活動強化月間の具体的な取組の内容を記入

(3) 新規参入相談会への参加目標

新規参入相談会への参加回数	1 回
---------------	-----

開催時期	8月	相談会名	合同就農相談会
参加者数	1人	開催場所	
相談会の内容	南あわじ市での就農希望者に対し、現場の立場から農業の魅力・特色を広く発信し、不安な点・疑問等の相談に対応する。		
開催時期		相談会名	
参加者数		開催場所	
相談会の内容			

※ 新規参入相談会への参加回数欄は、推進委員等が1名以上参加する相談会の数を記入(参加者数によらず、1名以上が参加する新規参入相談会ごとに1回とする)